SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

石炭の試掘：続報

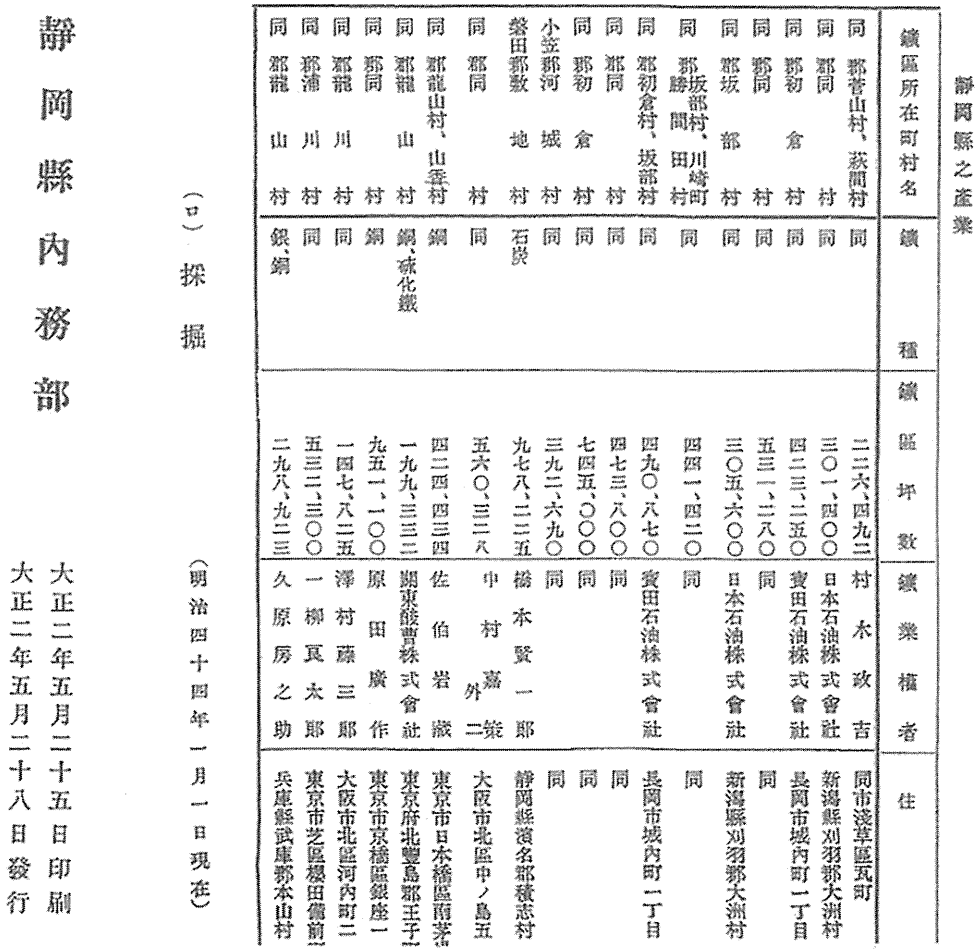
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-03-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 北村, 孔志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00024779

石炭の試掘―続報―

北　村　孔　志

1．はじめに

明治時代に石炭の試掘が静岡県西部，遠江周知郡下立花村（森町橘）と磐田郡敷地村大平新田（磐田市大平新田）で行われていた事実の報告がある（北村ほか, 2007）．遠江周知郡下立花（森町橘）は，内務省博物局（1880）の博物館列品目録の石炭の項目に記載され文献的証拠があるが，大平新田（磐田市大平新田）の石炭については，地域の方は知っていたが文献は見つからなかった．しかし，静岡縣内務部（1913）の静岡縣之産業の鑛業の部（図1）に磐田郡敷地村，石炭と明記されていることが判明した（北村, 2008; 図1）．この文献には敷地村の石炭鉱区が2ヶ所載っており，調査の結果そのうちの1ヶ所の鉱区権者の御子孫等が判明し，当時の様子が少し判明したので続報で報告する．



静岡縣之産業

鑛區所在町村名	鑛種	鑛區坪數	鑛業權者	住
同郡菅山村、萩間村	同	二二六、四九二	村本政吉	同市淺草區瓦町
同郡同村	同	三〇一、四〇〇	日本石油株式會社	新潟縣刈羽郡大洲村
同郡初倉村	同	四二三、二五〇	賀田石油株式會社	長岡市城内町一丁目
同郡同村	同	五三一、二八〇	同	同
同郡坂部村	同	三〇五、六〇〇	日本石油株式會社	新潟縣刈羽郡大洲村
同郡勝坂部村、間田川崎町村	同	四四一、四二〇	同	同
同郡初倉村、坂部村	同	四九〇、八七〇	賀田石油株式會社	長岡市城内町一丁目
同郡同村	同	四七三、八〇〇	同	同
同郡初倉村	同	七四五、〇〇〇	同	同
小笠郡河城村	同	三九二、六九〇	同	同
磐田郡敷地村	石炭	九七八、二二五	橋本賢一郎	静岡縣濱名郡積志村
同郡同村	同	五六〇、三二八	中村嘉策外二	大阪市北區中ノ島五
同郡龍山村、山香村	銅	四二四、四三四	佐伯岩藏	東京市日本橋區南茅場
同郡龍山村	銅、硫化鐵	一九九、三三二	關東酸曹株式會社	東京府北豐島郡王子二
同郡同村	銅	九五一、一〇〇	原田廣作	東京市京橋區銀座一
同郡龍川村	同	一四七、八二五	澤村藤三郎	大阪市北區河内町二
同郡浜川村	同	五三二、三〇〇	一柳良太郎	東京市芝區櫻田備前二
同郡龍山村	銀、絹	二九八、九二三	久原房之助	兵庫縣武庫郡本山村

（ロ）採掘　（明治四十四年一月一日現在）

静岡縣内務部

大正二年五月二十五日印刷
大正二年五月二十八日發行

図1．静岡縣内務部発行の静岡県之産業に，鑛区所在地 敷地村，鑛種 石炭と明記されている．鑛区は2ヶ所あるが，今回報告の鑛区は，どちらの鑛区かはわからない．

静岡大学工学部

2．鉱区権者を求めて

静岡縣内務部（1913）によると敷地村の鉱区権者は，当時町村合併したばかりの濱名郡積志村の実業家であった．濱名郡積志村は現在の浜松市東区積志地区（積志町・大瀬町・半田町・半田山・中郡町・有玉南町・有玉北町・有玉西町・有玉台・大島町・西ヶ崎町）である．この地区の橋本氏を電話帳からリストアップしたところ，41軒あった．数軒の橋本氏宅を訪問して事情を説明し協力を求めたところ，該当宅は約半分に絞られたが，世代が交代してから時間が経っているとのことでそれ以上のことは判明しなかった．同時に地域の幾つかの寺院を訪問して，過去帳や檀家による情報を求めたが，こちらでも必要な情報は得られなかった．そんな折，東区地域振興課の鈴木氏に事情を説明したところ，近々区協議会がありその中のメンバーに積志地区の歴史に詳しい方が数名いるとのことであった．早速お願いしたところ，数日後に鉱区権者の御子孫がわかり本人の了解を得たとの報告をいただいた．これにより，停滞していた調査が再開できることとなった．

3．鉱区権者のルーツ及び結果

鉱区権者の橋本氏は，旧上前嶋村庄屋橋本家の分家で4代目に当たる．先代吉五郎の縁で日本形染株式会社創業者宮本甚七氏の援助を受け，職布会社を創設した．当時，笠井･笠井新田･曳馬等三ヶ所で工場を経営し順調に業績を伸ばしていた．

大平新田で石炭が発見されたとの報を得，人足を集め飯場を大平新田の敷地川右岸に設け，試掘に取り掛かった．当初若干の石炭を採掘したという伝承を御子孫が話してくれた．

その間，地元では石炭採掘への期待が高まり，袋井駅から鉄道（軽便）を敷くという話もあったようだが，苦労とは裏腹に石炭の産出量は少なく，有望な鉱脈も発見できず鉱区権者の資金も枯渇し，試掘は打ち切られた．

その後の鉱区権者の橋本氏については，鉱山開発の失敗と第一次世界大戦の不況が重なり，好調だった工場経営に行き詰まり倒産してしまった．鉱区権者の家系は現存しているが，同家では石炭試掘に関することはタブーとされ，関係書類はすべて処分されため石炭の産出量や投資した金額，人足数などは不明である．

4．試掘の方法

(1) 試掘の時期：静岡縣内務部（1913）を見ると，鑛業権は明治44年1月1日となっているので，試掘は明治末期から大正の初期と絞ることができた．このとき，袋井から鉄道（軽便）を敷こうという話が持ち上がったとのことである．鉄道（軽便）の普及は明治後半から（田中・苦瀬, 2007）であるのでこちらの事実とも合致する．

(2) 試掘の方法とずりの搬出：橋本家に当時の資料は残されていないので，現存している当時使った道具及び地形から推定してみた．採掘方法として，タガネ掘り･火薬による発破･機械堀り･焼き取り採鉱法などがある．坑道内やずりに発破用に開けた穴の跡が見られないことから，火薬使用の可能性は低いとみられる．機械堀りも坑道の大きさから考えて可能性は低いとみられる．焼き取り採鉱法は硬い岩盤を掘る場合に使われる工法で，石炭があると燃えてしまうのでこの方法の可能性も低い．

図2. 磐田市大平新田の敷地川右岸にある試掘抗入口．ほぼ垂直な崖にある．トロッコの使用にはかなりの補強が必要であろう．ずりの搬出はもっぱら人力に頼ったと思われる．

図3. 2007年3月に行われた，敷地川左岸のもう一つの試掘抗探索．言い伝えではこの辺りといわれているが，坑道入口が土砂で覆われているため発見できなかった．山の斜面には表土の崩れ跡が見られる．

タガネとハンマーが現存（北村ほか, 2007）していることから，タガネ掘りで坑道が掘られたと考えるのが妥当であろう．試掘抗（炭鉱穴）は，敷地川右岸のほぼ垂直な崖に開口している（図2）．坑道の長さは約23 mと短いため，トロッコや荷車での搬出はなかったと推定した．ずりの搬出は，もっぱらもっこを使用して行われた可能性が高い．左岸にあるもう一つの試掘抗（北村ほか, 2007; 図3）でも同様で，もっこの使用による搬出の可能性が高い．

図4. 畑の隅のずり捨て場．植林された杉やアオキ・ハナミョウガ等に覆われている．周りに比べて一段高くなっており，角ばった石は川原の石とは明らかに異なる．

ずりに関しても記録がないためはっきりしないが，可能性が二つ考えられる．一つはそのまま直接敷地川に捨てるという方法．左岸の試掘抗はこれに加えて，畑の隅をずり捨て場としたことである．畑の隅に捨てたという伝えが残っていることに加え、ずり捨て場の場所も現存しているからである（図4）．左岸の試掘抗は右岸の試掘抗より長いといわれているので，畑の隅だけでは処理しきれなかったと思われる．

5．まとめ

石炭の試掘が成功した暁には，静岡県の産業の発展に多大な貢献をしたと思われる．橋本氏の夢への投資，スケールの大きさ，行動力には遠州地方の「やらまいか」精神がここにもこもっていると感じられる．先代の吉五郎氏は，日本楽器製造㈱（現ヤマハ）の支配人を歴任し，日本楽器製造㈱や日本形染㈱の発展を支えた人物でもあった．両橋本氏は時代を読み，産業の育成に力を注いだ先見性のおかげで，今の浜松の工業の発展があるように思える昨今である．

6．謝辞

今回石炭の試掘の続報を報告するにあたり，橋本吉五郎氏及び橋本賢一郎氏の情報を提供していただいた，ご子孫の橋本恒彦氏に紙面を借りて感謝申し上げる．また，橋本氏の御子孫の情報を教えていただいた東区地域振興課主任の鈴木氏に紙面を借りてお礼を申し上げる．

7．引用文献

北村孔志（2008）：西部支部巡検会報告－周知郡森町立花村（橘）及び磐田郡敷地村の石炭試掘坑巡検－. 静岡地学, 97, 33-35.

北村孔志・小木秀市・竹内健次（2007）：遠江周知郡下立花村字石切沢及び大平新田の石炭－忘れられた石炭の試掘－. 静岡地学, 95, 13-21.

内務省博物局（1880）：博物館列品目録, 第三冊天産の部鉱物類・地質類. 内務省博物局.

静岡縣内務部（1913）：静岡縣之産業. 静岡縣内務部.

田中香子・苦瀬博仁（2007）：明治時代以降における軽便鉄道の路線数の変化とその要因に関する基礎研究. http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/introduction/pdf/07s_tanaka.pdf